

広報

あさくら



2018
平成 30 年
5月 1 日号

No.290

新
た
な
学
び
舎
で

新設
杷木小学校開校！



閉校と開校 (2 ~ 5P)

特集 2 今、子どもの遊び場は大人がつくる時代！？
(6 ~ 7P)

特集 3 平成 30 年度の区会長を紹介します (8 ~ 9P)

特集 4 平成 30 年度の市の予算 (14 ~ 16P)



①閉校記念碑 ②希望の塔 ③校歌斉唱 ④地域主催の閉校イベント（プロジェクションマッピング上映）
⑤佐賀県白石町から返還された門柱の前で写真を撮る児童たち

そこには、人をつなぎ、成長させる学びがあった——。
松末のシンボルとして、災害から命を守ってくれた学校。

児童のことば

最後の卒業式や閉校式を迎えることができたのは、たくさんの方々の励ましのおかげです。心から感謝しています。ありがとうございます。

災害で大きな被害を受け、悲しい思いをしたのと同時に学ぶものがありました。「自然」とどう付き合っていくかを深く考えるようになり、まちの未来のことを考えるようになりました。仮設校舎で過ごす中で、いつも過ごしてきた松末小学校が特別な場所だったことが分かりました。

地域のみんなが背負ってきた松末小学校が閉校するのは胸が苦しいですが、消えていくのではなく、みんなの心に松末のシンボルとして生きていく一人として、これから一生懸命頑張ります。



松末 小学校

【プロフィール】

明治7年開校。明治33年に現在の地に移転され、校舎増築や運動場の拡張などが行われてきました。「まなび合い伸びていく子、すなおで思いやりのある子、えがおでやりぬく子」を教育目標に、これまで4890人の卒業生を輩出。平成29年の豪雨災害で被災しましたが、全国からのたくさんの支援により、元の体育館で卒業式・閉校式を行うことができました。



①校歌斉唱 ②校舎へ戻る児童たち ③学校長のあいさつ（ステージには児童作成の復興応援フラッグ）
④閉校記念樹 ⑤12年後に開封するタイムカプセル

どの時代の子どもたちも、いきいきと意欲的な活動を——。
杷木地域、福岡県内全体での輝かしい学校教育の推進校。

児童のことば

【プロフィール】

明治5年、池田小学校として開校。明治22年に杷木尋常小学校、昭和22年に杷木小学校に改称され、その後、大山分教場と統合されました。「やる気、やりぬく、思いやり」を学校目標に、これまで多くの卒業生を輩出。昭和61年、保護者によって作られた「はきっこランド」など、学校と地域が一体となって教育活動を行ってきました。

災害では本当に怖い思いをしました。辛い経験をした友達もいました。しかし、自分たちでできることをやっていこうと毎日を過ごしていました。私たちにとって杷木小学校で学んだことは貴重なことばかりです。閉校は寂しいですが、それは新しい世界への旅立ちでもあります。私の夢は先生になることです。杷木小学校で経験したことを活かして、将来杷木や朝倉市を支えられるようたくましく成長していきたいです。さようなら杷木小学校、そして、ありがとうございます。

最後の一年間

最高のものに

していきたいと

いう思いで過ごしました。中でも、

みんなで作り上げた運動会はとても

心に残っています。組体操や応援合

戦など、一人ではできないことも仲

間がいれば前に進める、協力して頑

張れば成功させることができること

を学びました。

災害では本当に怖い思いをしま

した。辛い経験をした友達もいまし

た。しかし、自分たちでできること

をやっていこうと毎日を過ごしてき

ました。

私たちにとって杷木小学校で学ん

だことは貴重なことばかりです。閉

校は寂しいですが、それは新

しい世

界への旅立ちでもあります。私の夢

は先生になることです。杷木小学校

で経験したことを活かして、将来

杷木や朝倉市を支えられるようたく

ましく成長していきたいです。

さようなら杷木小学校、そして、

杷木地域の4小学校

松末小学校 杷木小学校 志波小学校 久喜宮小学校

144年間



杷木小学校

146年間



久喜宮小学校

144年間



志波小学校

松末小学校

少子化に伴う児童数の減少により、平成30年3月、杷木地域の歴史ある4つの小学校が閉校しました。それぞれの学校に悠久の歴史と伝統があり、それぞれの地域で「心のふるさと」として愛され、たくさんの人を成長させ、世に輩出してきた4小学校。この4月、ひとつとなり、新たな「杷木小学校」が開校しました。

木の温もりを感じられる
新しく大きな校舎——。

4つの地域の歴史と期待を背に
一歩を踏み出す 新設杷木小学校
(平成30年4月開校)

S 真理
K 協働
H 飛躍
M 明朗
校訓
志波 久喜宮 杷木 松末

友達をたくさん作りたい

無事に新設杷木小学校に通うことができて、とても嬉しいです。僕がこの学校で目標にしていることは、友達をたくさん作ることです。今日、初めて会った友達もいます。みんなと仲良くなりたいです。これまでの4つの小学校の伝統をこの学校でも活かしていきます。僕たちの頑張りを見守ってください。

素晴らしい校舎に躍動あふれる息吹を

学校は地域のシンボルであり、文化交流の拠点であり、心のふるさとです。子どもたちは新しい学校で不安もあると思いますが、友達や先生に相談しながら、各校の素晴らしい取組みを出し合い、新しい校風を作つほしいです。この素晴らしい校舎に躍動あふれる息吹を入れ、新しい杷木小学校を作つづくついていきたいです。

児童のことば



善海人さん(6年)

開校までの一歩の重みを感じずにはいられない

本校は、明治時代から始まる4つの学校の輝かしい歴史を受け継ぐ学校です。また、旧杷木町時代から議論が重ねられ、4つの地域の人の知識と汗によってできた学校です。その期待、全国からの応援を背に一歩を踏み出します。校訓は、4つの地

地域に愛され、地域に誇れる学校を目指して



▲校旗は福岡県PTA連合会から寄贈されました。

児童のことば

学校長のことば
塚本成光校長



塚本成光校長

地域の頭文字をもとにした言葉とし、新しい学校が進む道を示しています。ふるさとを愛し、夢や目標を持つて学び合い、最後までやりぬく子どもの育成を目指し、地域に愛され、地域に誇れる魅力ある学校を目指して全力で努力しています。



①閉校記念碑 ②校庭の桜の木 ③地域主催の閉校イベント(バルーンリリース) ④校歌齊唱
⑤閉校式後に思い出の教室で記念撮影

それぞれの時代で、子どものために支えられた——。
地域に愛され、地域に生かされてきた学校。

久喜宮小学校では、学校生活を通じて地域の方が優しく見守つてくれたことがとても嬉しかったです。特に、久喜宮に水田を作つた都合徳太郎の学習や田植え体験など、久喜宮ならではの体験をすることができたことがとても印象的です。

昨年の豪雨災害では苦しい思いをしましたが、たくさんの支援を受け、優しさと温かさに勇気をもらいました。これからは私たちが優しさの輪を広げたいです。

久喜宮小学校は閉校しますが、決してなくなりはしません。みんなの思い出として生き続けると思います。

久喜宮小学校、いつまでも忘れません。今までありがとうございました。



児童のことば

久喜宮小学校

【プロフィル】明治7年開校。若市小学校、鳥帽子小学校と改称を繰り返し、昭和22年、久喜宮小学校に改称。以後、校舎の増築、そして平成24年に体育館の改築が行われました。「思いやり、かしこく、たくましく」を校訓に、これまで7014人の卒業生を輩出。平成29年の豪雨災害では、被災した松末小学校、志波小学校の仮設校舎が運動場に建ちました。



①歴代の卒業アルバム ②校舎へ戻る児童たち ③地域主催の閉校イベント(自衛隊の音楽演奏)
④柿の木を模し、小学校への感謝を表した全校児童の作品 ⑤校歌齊唱

ヒト、モノ、コトの良さを味わう——。
志波地域の教育への思いを乗せ、羽ばたく学校。

志波小学校では、梅ヶ谷藤太郎の学習や鶴飼体验、そば打ちなど志波ならではのことをたくさん学ぶことができます。これも、志波のみんなの願いが込められているものだと思います。災害では大変な思いをしました。これも、志波のみんなの願いが込められているものだと思います。これからは志波小学校で学んだことを活かして、しつかり羽ばたいていきたいです。それが、これまで育ててくれた志波小への恩返しだと思うからです。今、僕たちは新たな第一歩を踏み出します。



児童のことば

志波小学校

【プロフィル】明治7年開校。明治43年に現在の地に移転改築されました。「ふるさとを愛し、夢・目標を持って学びあい、最後までやりぬく」を学校目標に、これまで多くの卒業生を輩出。長年、交通安全を祈願した折鶴運動を行っており、学力は市内トップの成績。平成29年の豪雨災害で被災しましたが、全国からの支援により元の体育館で卒業式・閉校式を行うことができました。

児童のことば



伊藤睦人さん

児童のことば



▲校旗は福岡県PTA連合会から寄贈されました。

学校は地域のシンボルであり、文化交流の拠点であり、心のふるさとです。子どもたちは新しい学校で不安もあると思いますが、友達や先生に相談しながら、各校の素晴らしい取組みを出し合い、新しい校風を作つほしいです。この素晴らしい校舎に躍動あふれる息吹を入れ、新しい杷木小学校を作つづくついていきたいです。

「地域と家族で孫まご育てブック」を作成しました！



市では、朝倉市総合戦略「朝倉らしい地方創生の取り組み」として「安心して結婚・出産・子育てができる朝倉」をめざし、「親・子・孫三世代暮らし」を推進しています。

共働き世帯が増える中、子育て世代の頼りとなる祖父母の皆さんの祖父母力「孫育て」が必要とされていますが、子育ての方法や考え方は、時代とともに変わっており、手を差しのべたい祖父母の皆さんも戸惑いやもどかしさを抱くことがあります。

そこで、「祖父母世代」「親世代」「孫」が心地よい関係を築き、さまざまな愛情のもと「朝倉市の子どもたちが健やかに育ってほしい、幸せになってほしい」との願いからこの冊子を作成しました。

市役所(各支所含む)・子育て支援センターなどで無料配布するほか、市ホームページで見ることができます。祖父母の皆さんはもちろん、地域の皆さんもぜひご一読ください。

平成30年度版
「あさくら子育て支援ブック」
も活用ください！

子育て支援事業など子育てに役立つ情報をまとめています。



問 市子ども未来課 (☎ 28-7568)



◆プレーパークに参加するきっかけや参加しての感想は？

- ・山下さんに誘われて。自然の中でいろいろな遊びをすることで、子どもに良い影響があると思います。
- ・子育て支援センターで知って。室内で遊ぶときは、子どもが何かしないか、壊したりしないか見張っている感じでしたが、プレーパークでは自分もリラックスでき、子どもも楽しんでいます。
- ・広報紙で講座を見て「これだ！」と思ったのがきっかけ。子どもはのびのび遊んでいるし、親は怒らなくて良いです。プレーパークは、子どもが「想像力」を働かせる場所だと感じます。



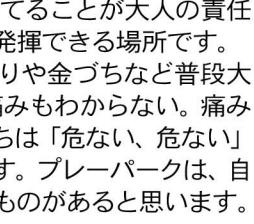
◆子どもに変化は見られますか？

- ・一日中ゲームをしていた子が、最近は「プレーパークに行こう！」と言います。家にいるとぐずる子も、プレーパークで遊んでいるときはぐずりません。
- ・最初は、子どもも何をして遊んでいいかわからない様子でしたが、活発に遊ぶようになってきました。木を切ったり、釘を打ったりもします。積極性が出てきて、家でも進んでお手伝いをしてくれるようになりました。



◆プレーパークはどんな場所ですか？

- ・私たちが子どものころ「遊び場」は当たり前にあった場所だと思います。今の子どもたちには、それがない。かわいそうに思います。周りでは「危険なことや汚いことをさせない」ことが当たり前になっていて違和感を感じています。でも、外遊びは子どもの「生きる力」、「自分で行動する力」を養う場所だと思います。それは「大人になって必ず役に立つ力」。その力を育てることが大人の責任だと思います。プレーパークは、子どもが自分を発揮できる場所です。
- ・プレーパークでは、道具を準備しています。のこぎりや金づらなど普段大人が用意しない道具も準備します。経験しないと、痛みもわからない。痛みもわからないと、人に優しくできない。今の子どもたちは「危ない、危ない」で何もさせてもらっていない。これは問題だと思います。プレーパークは、自分の責任で遊ぶ場所。だからこそ、子どもも親も学ぶものがあると思います。



プレーパークの第一人者

朝倉の未来へ向かって

特定非営利活動法人
日本冒険遊び場づくり協会

天野 秀昭 さん



子どもは、遊ぶことを通じて「命の根っこ」を育てます。お城でいうと、石垣を築くのです。遊ぶ経験が浅いと、石垣は隙間だらけになり、ところどころ穴も空きます。その上の城はぐらぐらです。

「朝倉にプレーパーク(冒険遊び場)をつくりたい！」という願いを持った人たちは、豪雨災害に「こんなときだからこそ」と、遊び場づくりに着手しました。子どもが自由に遊ぶ、その場と機会を人が保障する。現代においてこれは不可欠な取り組みなのです。そして、遊び場づくりはふるさとづくりでもあります。未来に向け、ますます広がってほしいです。



プレーパークは親も学ぶ場所！もっと知ってほしい

母親になって、子どもを遊びに連れて行っても、公園は与えられた環境で遊ぶだけ。ルールから外れないように見張らなければならない窮屈さを感じていました。そこで出会ったのがプレーパークです。自然豊かな朝倉市で、自由に遊べる場所が欲しいと思いました。今はたくさんの方々の後押しで実践できています。

災害後、「こんなときに……」と批判を浴びる不安があり、事業をあきらめかけていました。でも、日本冒険遊び場づくり協会の天野さんから「災害後は子どものケアが必要。それが、イコール遊びなんだ」と助言もあり、遊び場づくりに取り組むことを強く決心しました。

プレーパークに来てくれた子は、みんな「楽しかった！」と言ってくれます。参加した親たちも、自然に見守っています。自由に遊ぶ環境で、子どもが学ぶのはもちろん、親も学ぶ場所だと思っています。月1回(毎月第3日曜日)開催していますので、たくさんの子どもたちに遊びに来てほしいし、もっとたくさんの人にプレーパークを知ってほしいです。

問 山下千春さん (☎ 080-2714-6175)

平成29年度
朝倉市提案公募型協働事業

子ども
プレーパーク

子どもが自然の中で思いつき
り遊ぶ！自分で考
える！

けがとお弁当は
自分持ち

すぐすく朝倉の未来隊！

代表 山下千春 さん

